芸　　術

1　教育課程の編成

(1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

芸術科においては、各科目における見方・考え方を働かせ、「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」の育成を目指すこととしている。各教科に設定された科目のうち、Ⅰを付した科目は、中学校の学習を基礎として、表現活動と鑑賞活動についての幅広い学習を通して、創造的な芸術に関する資質・能力を伸ばすことをねらいとしている。また、Ⅱを付した科目は、Ⅰを付した科目を履修した生徒が、興味・関心などに応じて発展的な学習を行い、個性豊かな芸術に関する資質・能力を伸ばすことをねらいとしている。さらに、Ⅲを付した科目は、Ⅱを付した科目を履修した生徒が、興味・関心等に応じてより一層発展的な学習を行い、生徒の個性豊かな芸術に関する資質・能力を伸ばすことをねらいとしている。教育課程の編成に当たっては、こうした科目ごとのねらいや性格等を踏まえながら、適切に位置付けていくことが大切である。

(2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

芸術科の科目の編成及び標準単位数については、従前と異なるところはない。科目の編成及び標準単位数は次のとおりである。

科　　目	標準単位数	履修の条件
音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各２単位	Ⅰを付した科目は、これらのうちから１科目を全ての生徒が履修することとし、その単位数は標準単位数を下らないものとしている。なお、Ⅱを付した科目は、それぞれに対応するⅠを付した科目の履修後に、Ⅲを付した科目は、それぞれに対応するⅡを付した科目の履修後に履修することを原則としている。
美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各２単位	
工芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各２単位	
書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	各２単位	

(3) 特色ある教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、生徒の特性、進路などに応じた適切な各教科・科目を自由に選択履修することができるよう配慮することが求められている。そのため、ⅡやⅢを付した科目についても、生徒が自己の興味・関心等に応じて選択履修できるように配慮することが必要である。例えば、１年次に音楽に関する科目を履修した生徒が、２年次に美術に関する科目を履修したり、あるいは、同一年次に工芸に関する科目と書道に関する科目を並行履修したりするなど、生徒の希望を最大限に生かす工夫も必要である。

さらに、生徒、学校及び地域の実態、学科の特色等に応じ、芸術に関する学校設定科目を開設するなどして、生徒の一人一人の個性に応じてそれぞれの資質・能力を伸ばすことができる教育課程を編成することが大切である。

2　音楽の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

「音楽Ⅰ」の指導計画の作成に当たり配慮すべき主な事項について、次のとおり示す。

①「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導については、中学校音楽科との関連を十分に考慮し、特定の活動のみに偏らないようにし、**［共通事項］（「表現と鑑賞の学習に共通に必要となる資質・能力」以下同じ。）を要として各領域や分野の関連を図る**。

②「Ａ表現」の「歌唱」、「器楽」、「創作」の指導については、**指導事項のア（「思考力・判断力・表現力等」以下同じ。）、イ（「知識」以下同じ。）及びウ（「技能」）を関連させて指導する。**
また、「Ｂ鑑賞」の指導については、**ア及びイの事項を関連させて指導する。**

③［共通事項］については、表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり、**十分な指導が行われるよう工夫する。**

④「Ａ表現」の指導に当たっては、我が国の**伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。**

⑤「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、**芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付ける**とともに、「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、**曲や演奏について根拠を持って批評する活動などを取り入れるようにする。**

⑥必要に応じて、**音楽に関する知的財産権について触れるようにする。**

※［共通事項］：表現と鑑賞の学習に共通に必要となる資質・能力を各科目の特質に応じて整理したもの

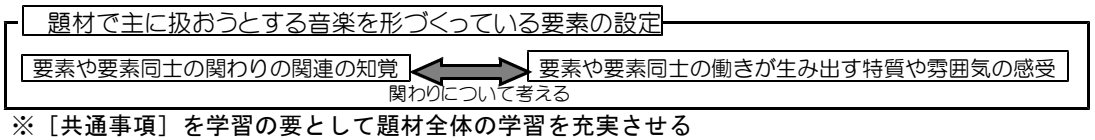
(2) 題材（単元）の指導計画作成上の留意点

ア　［共通事項］を踏まえた指導計画の作成

［共通事項］を要として、各領域や分野のそれぞれの指導事項を有機的に関連付けて指導できるように題材の設定を工夫することが大切である。

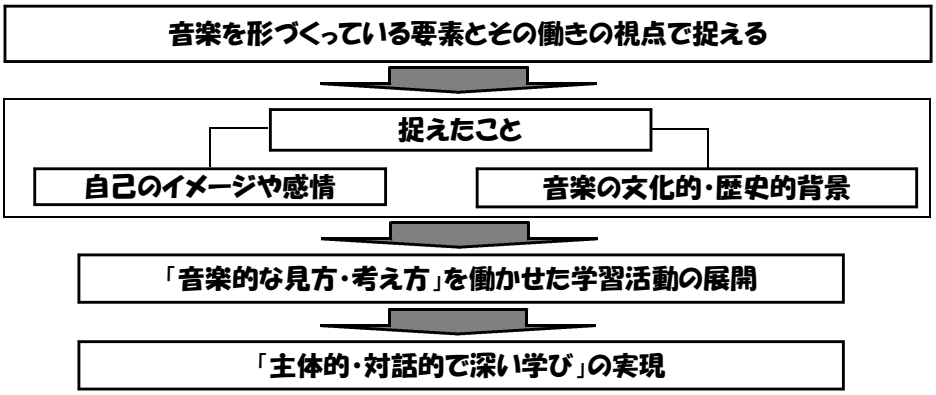
題材の指導計画を作成する際は、題材で主に扱おうとする音楽を形づくっている要素を明確にして、その上で、それらの要素を知覚したり感受したりしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えさせる学習を重視する。また、「音楽的な見方・考え方」を十分に働かせながら学習活動を行えるよう留意する。

◆「音楽Ⅰ」の［共通事項］（表現と鑑賞の学習に共通に必要となる資質・能力）



※［共通事項］を学習の要として題材全体の学習を充実させる

◆「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動の充実



生徒が自ら感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などとを関連付けて考えているとき、「音楽の見方・考え方」が働いている。

イ　題材の指導計画の例

「音楽Ⅰ」の題材の指導計画の例（一部）を次に示す。

科目名	題材名
音楽Ⅰ	「日本語の語感を生かして歌おう」

1　題材の目標

日本歌曲が表現する、日本語独特の抑揚や語感を感じ取ったり、曲想と楽曲の背景を関わらせたり、言葉の特性を生かしながら、楽曲にふさわしい発声や表現を工夫してイメージをもって歌唱する。

2　本題材で扱う教材

「この道」（歌唱）

3　主に扱う音楽要素

「音色」「旋律」「速度」「強弱」

4　評価規準（新学習指導要領による）

【学習指導要領の記述】
A　表現（１）歌唱
(1) 歌唱
歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。
(ｱ) 曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わり
(ｲ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
(ｳ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
ウ　創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。
(ｱ) 曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能
(ｲ) 他者との調和を意識して歌う技能
(ｳ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能

知識及び技能	・「この道」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。（知識） ・日本語の特性を理解するとともに、歌詞の意味と声の音色との関わりについて理解している。（知識） ・創意工夫を生かした表現で「この道」を歌うために必要な、発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を
思考力・判断力・表現力等	・「この道」を形づくっている音色・旋律・速度・強弱等の要素や要素同士の関連及び日本語の語感との関わりを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、「この道」にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	・日本語の語感を生かして表現を工夫する学習に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組んでいる。

【留意事項】
指導計画の作成に当たっては、目標、学習内容、評価規準等が一体となっていることが大切である。

「共通事項」
ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
イ　音楽を形づくっている要素及び用語や記号などについて音楽における働きと関わらせて理解すること。

※以下に示す(3)及び(4)については、芸術科における共通事項であるため、ここに記載し、他の科目では省略する。

(3) 情報機器の活用等に関する配慮事項

表現及び鑑賞の指導に当たっては、学校の実態に応じて学校図書館を活用したり、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して学習の充実を図り、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう指導計画を工夫する必要がある。

【音楽科における情報機器活用の場面の例】
・演奏した音楽を再現したり演奏場面を見返したりする場面（歌唱・器楽）
・楽譜として表した音楽を実際の音で表す場面（創作）
・気になったところや、聴き逃したところを聴き返す場面（鑑賞）

(4) 地域の文化施設や社会教育施設の活用等に関する配慮事項

各科目の特質を踏まえ、学校や地域の実態に応じて、文化施設や社会教育施設等の活用を図ったり、地域の人材の協力を求めたりするなどの工夫が大切である。

(5) 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領では［共通事項］が新設され、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることで、思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力を育成することとされている。

ここでは、［共通事項］に示された内容のうち特に音色に重点をおき、管弦楽作品の鑑賞を通して得た知識を基に、生徒が主体的に自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫し、生徒同士の演奏について対話的な学習を通じてより深い学びとすることをねらいとした実践例を示す。

具体的には、同じメロディが繰り返される『ボレロ』の鑑賞を通して得た知識を基に、管弦楽の音色の多彩さと楽曲全体の構造について知覚・感受した内容を、作品の任意の部分について音色を手掛かりとしてアイディアやイメージを広げ、生徒自らの演奏に置き換えることを想定した表現を模索することにより、思考力、判断力、表現力等を働かせて学びが深まるよう構成している。

なお、事例の第１次については、「新たな学習スタイル」に関わる実践として、家庭学習において、教科書に掲載された解説を各自で読みながら作品をオンラインで鑑賞した後、第２次の学習へと繋げる実践も可能である。

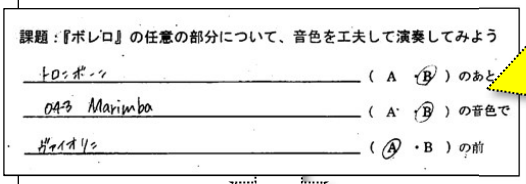
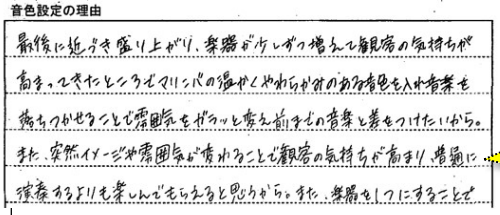
◆　題材（単元）の指導と評価の計画（太枠は参考）

題　材　名	多彩な音色を感じて表現しよう			
題材の目標	『ボレロ』の鑑賞を通して知覚・感受した内容をもとに、旋律の特徴や楽曲の構成を生かし、音色に着目して自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。			
教　材	ボレロ（M.ラヴェル）			
新指導要領の指導事項	A表現(2)器楽 ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること イ(ｲ)曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解すること ウ(ｱ)曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能について身に付けること B鑑賞(1)鑑賞 ア(ｱ)曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと イ(ｱ)曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解すること			
本題材で重点的に扱う〔共通事項〕	ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。〔音色　旋律　強弱　形式〕			
新指導要領に関連する内容の取扱い	(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るものとする。 (4) 内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。			
評価の観点	音楽への関心･意欲･態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価規準	①管弦楽の特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 ②楽器の音色に関心を持ちそれらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律や強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら音色の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて表現意図をもっている。	①楽器の音色を生かした音楽表現をするために必要な知識や奏法を身に付け、創造的に表している。	①旋律や強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、管弦楽の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

音色について重点化し
学習活動を展開する

次程	学習内容	評価の観点			
		関	創	技	鑑
第１次	『ボレロ』の鑑賞を通して、楽曲全体の構造や表現の特徴について感じ取る。	①			①
第２次	『ボレロ』の旋律について、曲全体の一部分について想定しながら演奏を工夫したり、音色を変化させて自己の表現意図について模索する。			①	
	『ボレロ』の旋律を自己の表現意図に基づいて発表する。		①		
第３次	他者の演奏した『ボレロ』について聴き取った表現意図について考察、共有する。	②			

本時の目標（第２次）
１　『ボレロ』の旋律をシンセサイザーやタブレットなどで演奏し、MIDI 規格について学習する。
２　音色を変化させたり、楽曲のどの部分を演奏するのかを主体的に考え、表現を工夫する。

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点【評価の観点・方法】
導入	機器操作の学習 又は 楽器演奏技能に関する学習	・MIDI 規格について学習する ・『ボレロ』の旋律を様々な音色で演奏する。 画像をクリックすると動画が流れます。	旋律の演奏に不慣れな生徒について支援するとともに、生徒自身が試行錯誤する中で自らの表現意図を模索する活動となるよう留意する。 本題材はＩＣＴ機器の活用を前提としているが、簡素な旋律であるため、リコーダーや他の楽器を選択的に用いる展開も考えられる。
展開	表現意図の構成	・『ボレロ』の任意の部分を自分の演奏に置き換えることを想定し、場面の設定を考える。  課題：『ボレロ』の任意の部分について、音色を工夫して演奏してみよう トロンボーン（A・B）のあと 043 Marimba（A・B）の音色で ヴァイオリン（A・B）の前 ・自己の表現意図に基づいた音色設定を工夫する。  音色設定の理由 最後に近づき盛り上がり、楽器が少しずつ増えて観客の気持ちが高まってきたところでマリンバの温かくやわらかなのある音色を入れ音楽を盛ちつかせることで雰囲気をガラッと変え前までの音楽と差をつけたいから。 また、突然イメージや雰囲気が変わることで観客の気持ちが高まり惹きつけ演奏するよりも楽しんでもらえると思うから。また、楽器もしつにすることで リズムの反復	全体の構成や楽器の寡多に着目させ、なぜその部分を選択するのか、表現意図について考えさせる。 『ボレロ』が同じ旋律の繰り返しで構成されていることや、曲全体が大きなクレシェンドで構成されている等、前次で学習した内容に着目させ、学習の重点が音色の選択にあることに気付かせる。 楽器の音色を生かした音楽表現をするために必要な知識や奏法を身に付け、創造的に表している。【技①・ＷＳ】 言語活動を通して、自らの表現意図について考えを明らかにしたり、思考を深め客観的に他者へ伝えたりすることができるよう、活動の場面を設定する。
まとめ	発表 演奏の聴取	・自ら考えた音色で演奏を発表する。 画像をクリックすると動画が流れます。 ・他者の演奏を聴き、表現意図について考える。	旋律や強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、音色の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて表現意図をもっている。【創①・ＷＳ】 対話的な学びの場面として設定する。

３　美術の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

「美術Ⅰ」の指導計画の作成に当たり配慮すべき主な事項について、次のとおり示す。

①「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導については、中学校美術科との関連を十分に考慮し、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」相互の関連を図り、特に、**発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。**

②生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、「Ａ表現」の「絵画・彫刻」については絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。また、「デザイン」及び「映像メディア表現」については、いずれかを選択して扱うことができる。その際、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、目的や機能などを考えた表現の学習が調和的に行えるようにする。

③「Ｂ鑑賞」の指導については、各事項において**育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を配当する。**

④**［共通事項］は、**表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり、**「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて、十分な指導を行い、各事項の実感的な理解を通して、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点がもてるように配慮する。**

⑤「Ａ表現」の指導に当たっては、スケッチやデッサンになどにより観察力、思考力、描写力などが十分に高まるよう配慮する。

⑥「Ａ表現」の指導に当たっては、主題の生成から表現の確認及び完成に至る全過程を通して、**自分のよさを発見し喜びを味わい、自己実現を果たしていく態度の形成を図るよう配慮する。**

⑦「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、**日本の美術も重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする。**

⑧「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、芸術科美術の特質に応じて、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、［共通事項］に示す事項を視点に、**アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。**

⑨必要に応じて、**美術に関する知的財産権や肖像権について触れるようにする。**

(2) 題材（単元）の指導計画作成上の留意点

ア　［共通事項］を踏まえた指導計画の作成

［共通事項］は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を示したものであり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付け、指導計画を作成する必要がある。

◆「美術Ⅰ」の［共通事項］（表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力）

造形の要素の働きを理解すること　「木」を見る視点

「森」を見る視点

造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること

イ　題材の指導計画作成の例

「美術Ⅰ」における指導計画の例（一部）を次に示す。

科目名	題材名
美術Ⅰ	「オススメの自分」

1　題材の目標

自分らしさなどを基に主題について生み出した、発想や構想したことを創造的に表現する。

2　本題材で扱う教材

「オススメの自分」

（自画デッサン）

3　評価規準（新学習指導要領による）

【学習指導要領の記述】

(1) 絵画・彫刻

絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

(ｱ) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。

(ｲ) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩，構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。

イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能

(ｱ) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。

(ｲ) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。

知識及び技能	・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に美しさや自分らしさなどを全体のイメージで捉えることについて理解している。（知識） ・鉛筆の芯の生かし方などの技法を身に付け、意図に応じて工夫している。（技能）	【留意事項】自画像デッサンでは、「最も自分らしさを表現していると思う表情やポーズ」を考え、鏡の前でデッサンする。
思考力・判断力・表現力等	・自己と自己の内面を見つめ感じ取った表情やポーズの特徴や美しさ、自分らしさなどを基に主題を生み出し、画面全体と各部の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	【留意事項】生徒は「自分らしさとは何か」自己に問う。そして「それを効果的にどう表現するか」発想や構想して表現する。完成後、お互いの作品を鑑賞する。本題材では、「表情やポーズ、描く角度、鉛筆による線描の仕方や濃淡などで個性や人柄などを表現できる」という発想や構想と鑑賞の双方に考えを深めることが大切である。
主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい、表情やポーズの美しさ、自分らしさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。	【留意事項】「自分らしいポーズ」を検討する際は、タブレットのカメラ機能等を用いて、お互いに感想を伝え合うなど、ＩＣＴ機器の活用による工夫が考えられる。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領に定められた内容を踏まえるとともに、効果的な指導を行うために、言語活動により、主題を追究し表現の工夫を図った「美術Ⅰ」の実践例を示す。

◆　題材（単元）の指導計画（例）

題材名	BOX ART　～私の空間～							
題材の目標	・自己や生活などを見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、ＢＯＸ型の空間を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表す。 ・完成した生徒同士の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。							
評価の観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力				
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと							
時　間	学　習　活　動	評価規準				評価方法		
		関	発	創	鑑			
2	●　課題について理解する。 ●　自己の内面や自分を取り巻く状況などから主題を生成する。	○	○			「関心・意欲・態度」 ・意見を述べ合う様子		

	・自分の個性、特徴を見つめ、表したい想いを明確にする。 ・素材そのものがもつイメージついて考え、自分の表現にふさわしい素材を選択する。 言語活動 物が、人に与える印象を話し合う。 例）画鋲は「とがっているので痛々しい」など。					・ワークシート 「発想や構想の能力」 ・ワークシート ・アイデアスケッチ
8	● 構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ・構想したことを基に表現の意図に応じた材料や用具を吟味して使い、制作をする。 ● 主題を追求し、表現を深める。「創造的な技能」 ・主題を追求し、表現方法を工夫しながら制作をする。	○		○		「関心・意欲・態度」 ・制作の様子 「創造的な技能」 ・制作途中の作品
2	● 他者の作品から、作品の主題、意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、理解する。 ・自分の作品にタイトルを付け、作品について構想した表現意図の説明を記述し、発表する。「鑑賞の能力」 ・相互に作品を鑑賞し、批評し合う。 ・他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫をワークシートにまとめる。 言語活動 相互鑑賞により、自分の作品について振り返る場面を作る。	○			○	「関心・意欲・態度」 ・鑑賞の活動 ・グループワークの様子 「鑑賞の能力」 ・ワークシート ・発表内容

◆ 生徒の作品

◆ 生徒の感想

・自分にとって音楽がどのような存在であるかを確認できました。そして作品についての説明を書いていく上でも、新たな発見がありました。少しの色だけを使うのではなく、沢山の色を使うことで音楽は一つではないということを表現できたかなと思いました。
・人によって箱の中身や雰囲気が違うので面白かったです。箱を見ているだけで、その人の好きな事などが分かるので良いと思いました。〇〇が好き！とかだけではなく、今までの人生を箱に詰めた人もいて、凄いなと思いました。
・床の色は、壁などの内装の雰囲気や世界観を壊さないように生み出すことに苦労しましたが、結果的に満足のいく仕上がりになったのでよかったです。また、自分に重ねて使用したキャラクターを常識的に座らせないことで、表現できることがいっぱいあって楽しくなった。今回学んだことを活かして今後も表現の幅を広げていきたい。
・ぱっと見て感じられる印象の多くは色味からなので、印象を操作するためには色味を偏らせるのも一つの手段だと思う反面、色味以外の要素で印象を操作するための方法を開発していきたいと思いました。

4　工芸の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

「工芸Ⅰ」の指導計画の作成に当たり配慮すべき主な事項について、次のとおり示す。

①「美術」の(1)の①と同様
②「美術」の(1)の③と同様
③「美術」の(1)の④と同様
④「A表現」の指導に当たっては、**地域の材料及び伝統的な工芸の表現などを取り入れることにも配慮する。**
⑤「A表現」の指導に当たっては、発想から制作の確認及び完成に至る全過程を通して、自分のよさを発見し喜びを味わい、**自己実現を果たしていく態度の形成を図るよう配慮する。**
⑥「B鑑賞」の指導に当たっては、**日本の工芸も重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする。**
⑦「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、芸術科工芸の特質に応じて、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、［共通事項］に示す事項を視点に、**アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。**
⑧必要に応じて、**工芸に関する知的財産権などについて触れるようにする。**

(2) 題材（単元）の指導計画作成上の留意点

ア　［共通事項］を踏まえた指導計画の作成

「美術」と同様。

イ　題材の指導計画作成の例

「工芸Ⅰ」における指導計画の例（一部）を次に示す。

科目名	題材名
工芸Ⅰ	「誰かのための器」

1　題材の目標
- 自分がよく知っている、特定の「誰か」について、その人物の人柄や個性、印象などから主題を生成し、形や色彩が感情にもたらす効果や、特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解する。
- 粘土ベラなどの道具を効果的に用いながら意図に応じて工夫して表す。
- 完成後、互いに鑑賞する中で造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

2　本題材で扱う教材
「誰かのための器」(陶芸)

3　評価規準（新学習指導要領による）

【学習指導要領の記述】
(1) 身近な生活と工芸
身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　身近な生活の視点に立った発想や構想
(ｱ) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。
(ｲ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。
イ　発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能
(ｱ) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。
(ｲ) 手順や技法などを吟味し，創造的に表すこと。

【留意事項】題材名「誰かのための器」では、「特定の人物に使ってもらいたい器」のデザインを考え、実際に制作を行う。生徒はまず「その人物はどのような人なのか」を考え、次に「その人物にふさわしいデザインとは何か」を発想・構想して表現する。完成後、お互いの作品を鑑賞する。本題材では、「器の種類、かたち、表面の仕上げ方や配色などで個性や人柄などを表現できる」などの発想や構想を工夫することや、互いに鑑賞することで見方や感じ方を広げることが大切である。

知識及び技能	・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、主題の美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。(知識) ・道具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫している。(技能)
思考力・判断力・表現力等	・特定の人物の内面までを見つめ、感じ取った特徴や美しさ、その人らしさなどを基に主題を生み出し、画面全体と各部の関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。
主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表情やポーズの美しさ、自分らしさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領に定められた内容を踏まえるとともに、効果的な指導を行うために、言語活動により、主題を追究し表現の工夫を図った「工芸Ⅰ」の実践例を示す。

◆ 題材（単元）の指導計画（例）

題材名	身近な生活を見つめて　～ペーパーナイフの制作～			
題材の目標	・身近な生活の視点に立ち、生活用具を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから発想し、木材という素材を生かし，用途と美しさの調和を考え、制作の構想を練る。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かし、手順や技法などを吟味し、創造的に表す。 ・完成した生徒同士の作品を鑑賞し、身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深める。			
評価の観点	工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			

時　間	学　習　活　動	評価規準 関	発	創	鑑	評価方法
2	● 課題について理解する。 ● 身近な生活用具を見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する。 ・日常使用している道具について実際に使用している様子を観察する。 ・機能や形状、操作性や感触などをよく観察したり試したりしながら、グループで交流する。 言語活動 握りやすさや感触など、自分の感じたことを発表し合いながら他者の視点からも気付きを深める。	○			○	「関心・意欲・態度」 ・意見を述べ合う様子 ・ワークシート 「鑑賞の能力」 ・発表内容
8	● 木材という素材を生かし，用途と美しさの調和を考え、制作の構想を練る。 ・アイデアスケッチをもとに実物大の平面図を描く。 ● 主題を追求し、表現を深める。 ・材料や用具の特性を生かし、手順や技法などを吟味し制作をする。	○	○	○		「発想や構想の能力」 ・ワークシート ・アイデアスケッチ 「関心・意欲・態度」 ・制作の様子 「創造的な技能」 ・制作途中の作品
2	● 他者の作品から、よさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を広げる。 ・作品について表現意図の説明を記述し、発表する。 ・相互に作品を鑑賞し、批評し合う。「鑑賞の能力」 ・他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫をワークシートにまとめる 言語活動 相互鑑賞により、自分の作品について振り返る場面を作る。	○			○	「関心・意欲・態度」 ・鑑賞の活動 ・グループワークの様子 「鑑賞の能力」 ・ワークシート ・発表内容

５　書道の指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

「書道Ⅰ」の指導計画の作成に当たり配慮すべき主な事項について、次のとおり示す。

①「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」相互の関連を図るものとする。

②「Ａ表現」の「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」、「仮名の書」の指導については、指導事項のア（「思考力、判断力、表現力等」以下同じ。）、イ（「知識」以下同じ。）及びウ（「技能」以下同じ。）の関連を、「Ｂ鑑賞」の指導については、ア及びイの事項を適切に関連させて指導する。

③「Ａ表現」の「漢字仮名交じりの書」については漢字は楷書及び行書、仮名は平仮名及び片仮名、「漢字の書」については楷書及び行書、「仮名の書」については平仮名、片仮名及び変体仮名を扱うものとし、また、「漢字の書」については、生徒の特性等を考慮し、草書、隷書及び篆書を加えることもできる。

④「Ａ表現」の「漢字の書」及び「仮名の書」については、臨書及び創作を通して指導するものとする。

⑤［共通事項］は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。

⑥書道Ⅰにおいては、「Ａ表現」の指導に当たり、篆刻、刻字等を扱うよう配慮するものする。

⑦「Ａ表現」の指導に当たっては、中学校国語科の書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図り、学習の成果を生活に生かす視点から、目的や用途に応じて、硬筆も取り上げるよう配慮するものとする。

⑧「Ｂ鑑賞」の「漢字仮名交じりの書」のイの「名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり」の指導に当たっては、漢字仮名交じり文の成立について取り上げるようにする。

⑨「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、作品について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。

⑩「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては、書道の諸活動を通して、生徒が文字や書と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。

⑪必要に応じて、書に関する知的財産権について触れるようにする。

(2) 題材（単元）の指導計画作成上の留意点

ア　［共通事項］を踏まえた指導計画の作成

［共通事項］は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力を示したものであり、知識として位置付けている。表現及び鑑賞のそれぞれの学習を通じて育成される資質・能力と併せて育成されるよう各活動に適切に位置付ける必要がある。

◆「書道Ⅰ」の［共通事項］（表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力）

用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関りについて理解すること

書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること

書の特質や書の美を捉えて表現したり観賞したりする上での観点

イ　題材の指導計画作成の例

「書道Ⅰ」における指導計画の例（一部）を次に示す。

科目名	題材名
書道Ⅰ	「漢字仮名交じりの書」

【学習指導要領の記述】
(1)　漢字仮名交じりの書
　漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ｱ)から(ｳ)までについて構想し工夫すること。
　(ｱ)　漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成
　(ｲ)　目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
　(ｳ)　名筆を生かした表現や現代に生きる表現
イ　次の(ｱ)及び(ｲ)について理解すること。
　(ｱ)　用具・用材の特徴と表現効果との関わり
　(ｲ)　名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
ウ　次の(ｱ)及び(ｲ)の技能を身に付けること。
　(ｱ)　目的や用途に即した効果的な表現
　(ｲ)　漢字と仮名の調和した線質による表現

1　題材の目標
・漢字と仮名の調和について考え、作品を分析する。
・先人が残した墨跡（名筆）を鑑賞し、漢字と仮名の調和した字形や作者の意図や工夫などを考察する。
・自分で考えた言葉を、漢字仮名交じりの書で表現する。

2　本題材で扱う教材
・「川端康成の墨跡（雪国）」
・「会津八一の墨跡（学規）」

【留意事項】
　題材など内容や時間のまとまりを見通した学習を行うに当たり、基礎となる「知識及び技能」の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図る必要がある。

3　評価規準（新学習指導要領による）

知識及び技能	・書を表現するための用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。（知識） ・漢字と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。（技能）
思考力・判断力・表現力等	・作品について、漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、作者の意図や工夫について考察している。 ・自己の作品について、目的や jh ん b 用途に応じた表現形式を工夫するとともに、意図に基づいて表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・内発的な動機に基づき、多様な観点をもって、書の表現や観賞の活動に主体的に取り組んでいる。

【留意事項】
・表現と鑑賞とは、相互に有効に作用するものであり、表現の活動に偏ることなく、表現と関連付けて鑑賞について指導すること。
・「B鑑賞」は「A表現」の臨書の学習の充実を図る上でも重要であること。
・［共通事項］を踏まえ、「思考力・判断力・表現力等」と「知識」とを関連させて指導するとともに、「A表現」の学習との関連を図ること。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領に定められた内容を踏まえるとともに、効果的な指導を行うために、ＩＣＴ機器の活用により、主題を追究し表現の工夫を図った「書道Ｉ」の実践例を示す。

◆ 題材（単元）の指導計画（例）

題材名	隷書に学ぶ					
題材の目標	・隷書体が身近な生活の中で使われていることを知り、その表現効果を理解する。 ・隷書の美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの表現を工夫する。 ・古典（隷書）における歴史的背景を理解しながら、隷書体の書法・特徴・線質などの効果的な技能を身に付け表す。					
評価の観点	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力		
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと					
時間	学習活動	評価規準 関	発	創	鑑	評価方法
1	身近な生活の中に「隷書体」が使われていることを知る ・隷書（八分隷３種「曹全碑」「乙瑛碑」「礼器碑」）の鑑賞 ※ＩＣＴ機器で提示 ・作品の第一印象を各グループ（４名）で発表し合い、共有する。 ・身近な生活の中に使われている隷書体を発表し合う。 ※例：新聞の題字、紙幣、墓碑など ・ＩＣＴ機器を用いて生徒が調べた隷書体の事例を発表する。 ・３種の隷書を試し書きしてみる。 【学びの重点化】 事前学習として、日常生活の中にある隷書文字について、パソコンやスマートフォン等のＩＣＴ機器を活用して家庭学習（知識の収集）をする。 ※調べてきたものはデータとして提出	○			○	「関心・意欲・態度」 ・発表の様子 ・ワークシート 「鑑賞の能力」 ・ワークシート
1 ※次ページに学習指導案を掲載	「隷書体」の特徴や用筆を理解する ・隷書とはどんな書体か、楷書と違う部分を話し合う。 ・隷書独特の字形・線質・用筆法を理解する。 波磔・蔵鋒・字形（均整美・均衡美）・転折 ・隷書の基本用筆の練習（起筆・波磔） 【授業展開の工夫】 相互の用筆・運筆が視野に入る環境とするため、４名グループの机を向かい合わせに配置する。自己の作品制作との比較対照により更に発展的な学習につなげる。			○		「創造的な書表現の技能」 ・制作の様子 ・制作途中の作品
1	相互の作品制作からヒントを得て自分の作品に生かす。 ・曹全碑の二字「有志」を半紙に書く。（作品制作１回目） ・各グループ１名を揮毫代表者とし、範書者として書作する。 ・生徒の運筆の様子を映し出す。 【ＩＣＴ等を活用した学習の充実】 ・隷書の用筆ができている生徒を範書者に選出して、その書作する様子を画面に映す。 ・字形や線質のほか、運筆の遅速も感じ取ることができる。		○			「書表現の構想と工夫」 ・ワークシート
1	グループで作品批評会を行い、自分の考えを発表する。 ・前時で書いた曹全碑「有志」についてグループで批評会を行う。 ・３つの隷書と比較しながら、曹全碑の特徴を見つけ出す。 言語活動　前時までの学習を踏まえて分析的に鑑賞し、３種の隷書作品（古典）の細かな違いを自分の言葉で述べる。				○	・ワークシート
1	前時の作品批評会を受けて、清書する。 ・前時の批評会を受けて「有志」を書く。（制作２回目：清書） ・本題材（隷書）で学んだことを各自ワークシートにまとめる。 ・ルーブリックによる評価 ・１回目の作品との比較		○			「書表現の構想と工夫」 ・ワークシート

◆　１単位時間の指導と評価の計画（例）

１　本時の目標（題材の２時間目）

(1) 隷書の特徴（字形・波磔など）について、ＩＣＴ機器を活用しながら理解する。

(2) 「曹全碑」を観察しながら、隷書体の運筆、字形、波磔等に着目するとともに、線質、字形について思考しながら効果的に隷書の技能を活用する。

過程	学習活動	指導上の留意点	評価方法等
導入	○学習内容の確認 ・前時の内容を確認する。 （「日常生活の中の隷書体」の確認）	・新聞題字、紙幣、墓碑など身近なものを想起させる。 【学びの重点化】事前学習として、日常生活の中にある隷書文字について、パソコンやスマートフォン等のＩＣＴ機器を活用して家庭学習（知識の収集）をする。	
展開①	○隷書と楷書の違いの発見 ・隷書（「曹全碑」）、楷書（「牛橛造像記」「雁塔聖教序」）の「有」の一字を比較し、隷書と楷書の書風との違いについて話し合う。 「曹全碑」 「牛橛造像記」 「雁塔聖教序」 ・隷書（「曹全碑」）に見られる独特の字形・線質・用筆法を理解する。	・４人グループ。 ・ＩＣＴ機器を活用して、隷書に見られる独特の書風を視覚的に分かりやすく紹介する。 ・ＩＣＴ機器を活用し、作品を拡大するなどして運筆・用筆法を確認する。 	
展開②	○隷書の基本用筆の練習 ・隷書の基本用筆（起筆、波磔）を学習する。	・字形（扁平）について、理解する。 ・ＩＣＴ機器を活用して、起筆・波磔の技能を分かりやすく指導する。	【評価の観点】「創造的な書表現の技能」 【評価方法】 ・制作の様子 ・制作途中の作品
まとめ	○隷書の基本を確認 ・隷書の書風・書体を確認する。 ・隷書の基本的な用筆をワークシートにまとめる。 ・自己評価を行う。 ・次回の学習内容を確認する。	・ＩＣＴ機器を投影し、数名の生徒に質問しながら学習内容を振り返る。 ・生徒個人の感想や自己評価をワークシートに記載させる。 ・次回の学習について、見通しを持たせる。 【学びの重点化】ＩＣＴ機器を活用して生徒の学習状況を確認するとともに、本時の学習について重点化して振り返りを行う。	